

八ヶ岳 冬期山行報告

3日目 (12月29日)

オーレン小屋→夏沢峠→硫黄岳→赤岩の頭→
峰の松目直下のコル→オーレン小屋→桜平→
唐沢鉱泉入口→(タクシー)→茅野駅(解散)

起床	04:30	
オーレン小屋		06:20 発
夏沢峠	06:40 着	07:05 発
硫黄岳	08:15 着	08:30 発
赤岩の頭	08:45 着	09:20 発
コル	10:50 着	
オーレン小屋	11:55 着	14:30 発
桜平	15:30 着	
唐沢鉱泉入口	16:45 着	

前日、峰の松目に登る途中で見た硫黄岳～峰の松目の稜線がとても魅力的だったので、この日はオーレン小屋～夏沢峠～硫黄岳～峰の松目直下のコル～オーレン小屋の周回ルート歩くことにした。

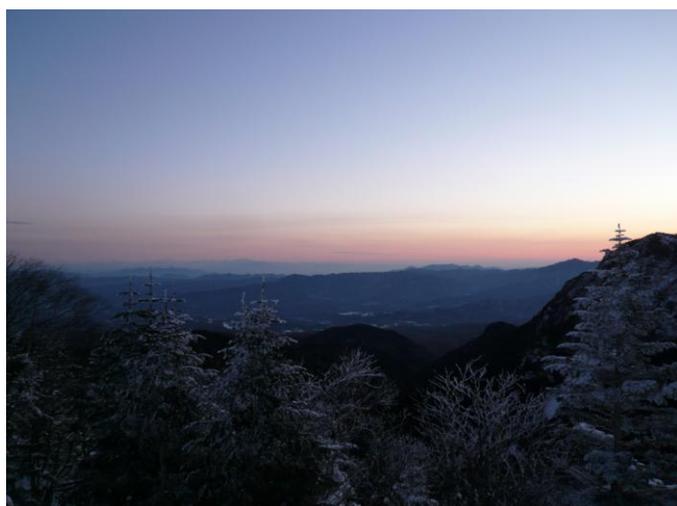
6時半前に小屋を出ると、どうやら快晴のようだった。風の音も聞こえない。暗い中、夏沢峠を目指して登って行くと次第に明るくなる。夏沢峠に着くと、展望の開けている東の方角は日光など遠くの山並みまで見渡せた。快晴の上、風も弱い。硫黄岳からは大展望が期待できそうである。



夏沢峠を目指す。アイゼンが気持ちよく効く。



夏沢峠。昨日とは違い、目の前に硫黄岳がくっきり。

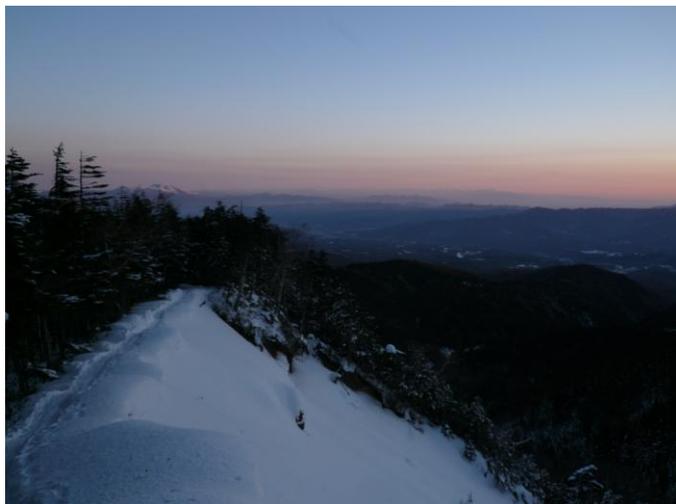


夏沢峠は、北東の方角が開けている



暗い中、小屋を出発

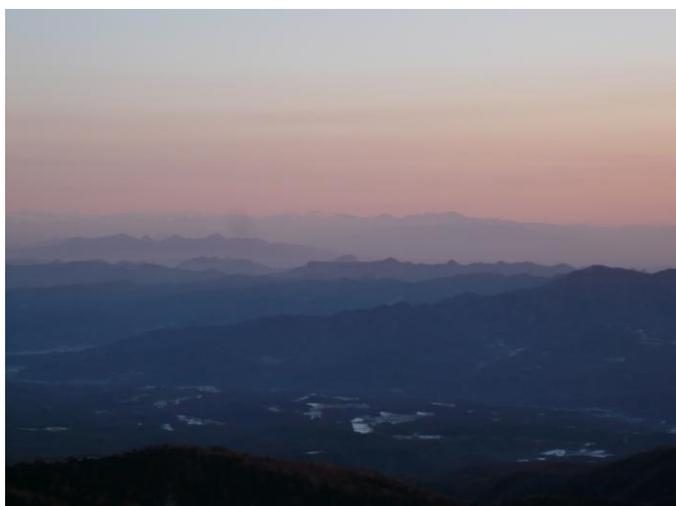
夏沢峠から少し樹林帯を歩くと、すぐに森林限界を超え、大展望が開ける。北東に日光や尾瀬、北は浅間山が近い。谷川も見える。西は北アルプス、乗鞍、御嶽山。高度を上げるにつれ、近くの山に隠れていた妙高や中央アルプスも姿を現した。風が強い場所なこともあって雪は非常に少ない。景色を眺めながらゆっくり歩いたにもかかわらず、夏とほとんど同じ時間で硫黄岳山頂に到着。



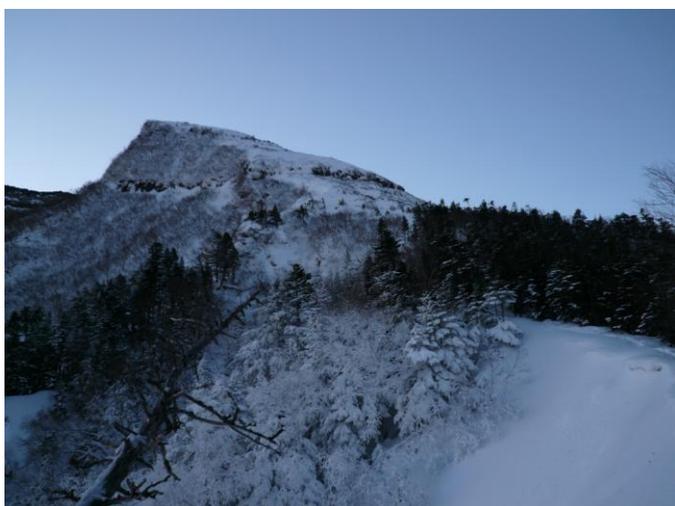
振り返ると、浅間山（左端）が。遠く、日光、谷川連峰や上越の山まで見える。



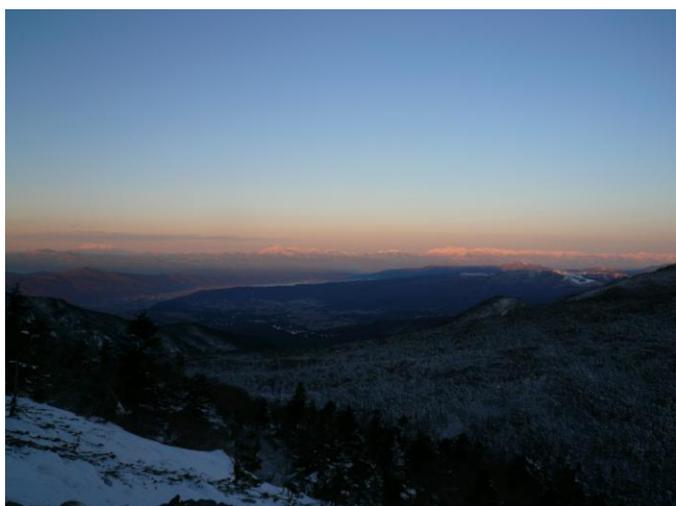
夏沢峠から少しの間、樹林の中を歩く



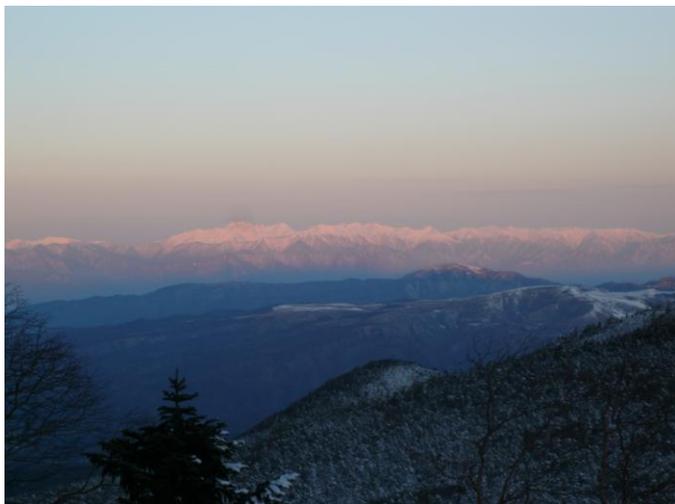
日光、尾瀬の山々。中央は日光白根山。



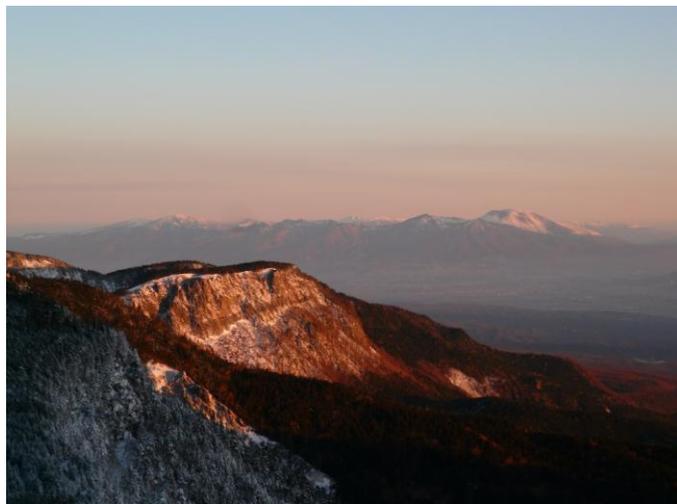
硫黄岳を目指す



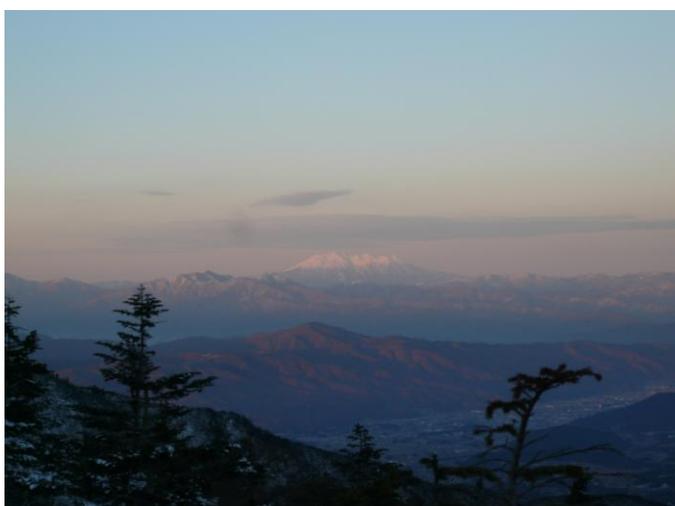
西の眺め。右から北アルプス、乗鞍岳、御嶽山。



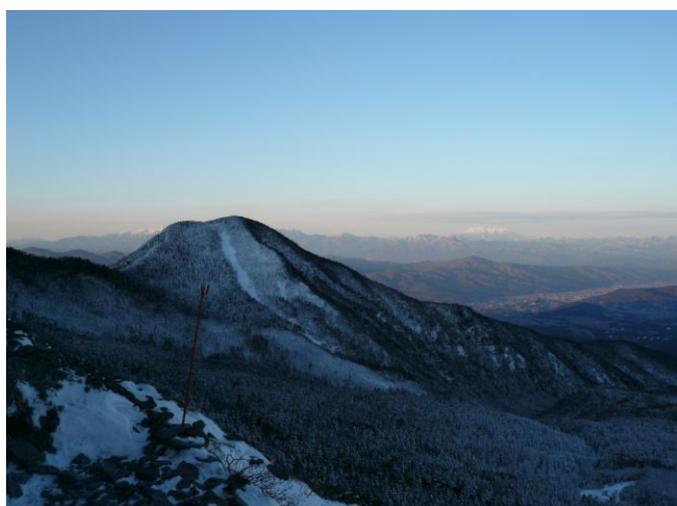
北アルプス遠望。槍穂高連峰がくっきり。



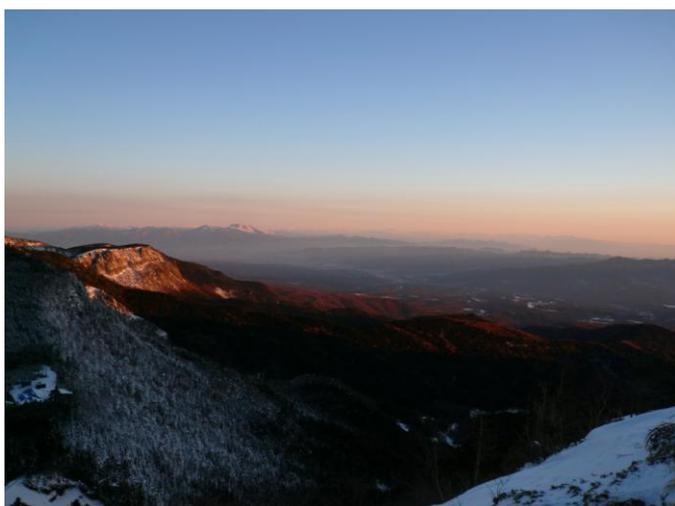
浅間山遠望



御嶽山遠望



前日に登った峰の松目



北東の眺め



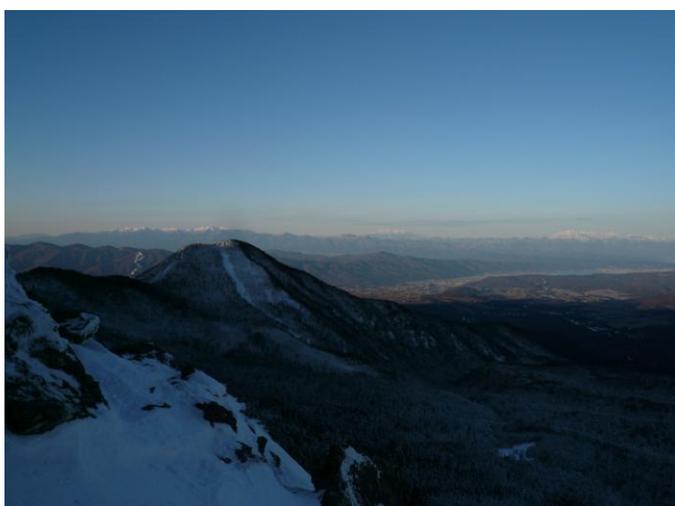
夏沢峠を振り返る



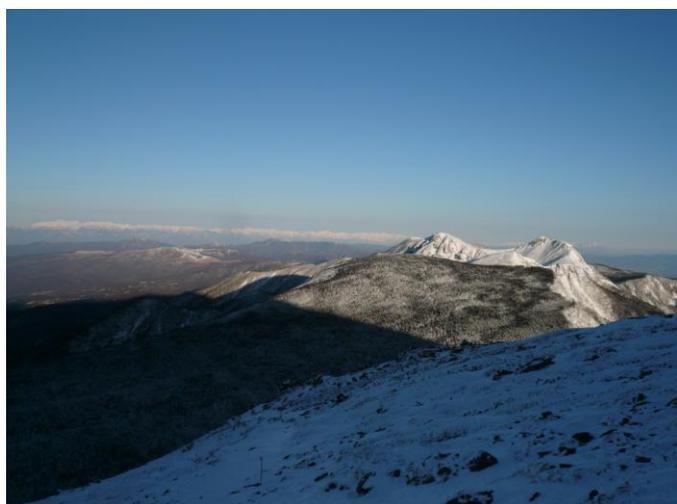
風が強いため、この通り雪は少ない



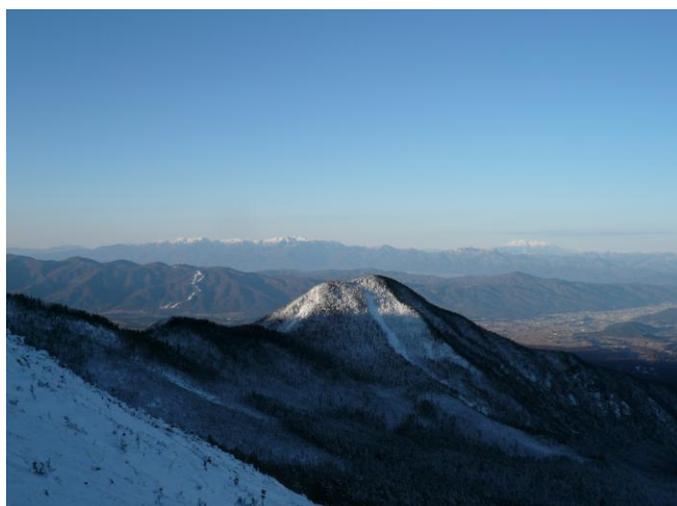
箕冠山に隠れていた天狗岳も姿を現した。左が西天狗岳、右が東天狗岳。



登るにつれ、峰の松目に隠れていた中央アルプスも見えるようになった。左から中央アルプス、御嶽山、乗鞍岳。



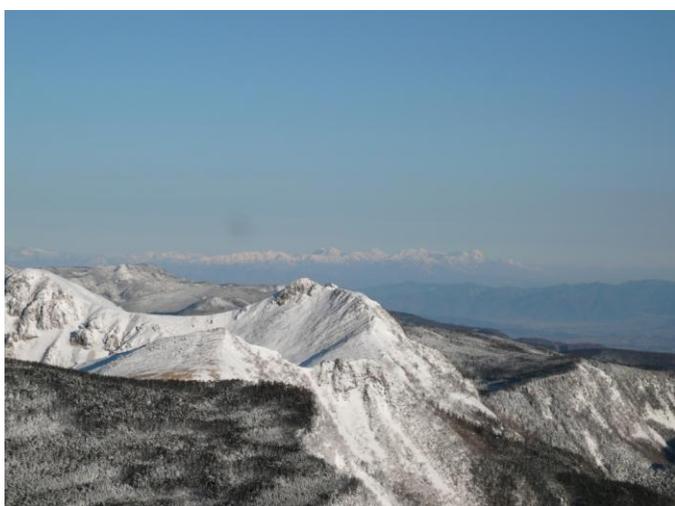
北アルプスと天狗岳



中央アルプスと御嶽山の遠望



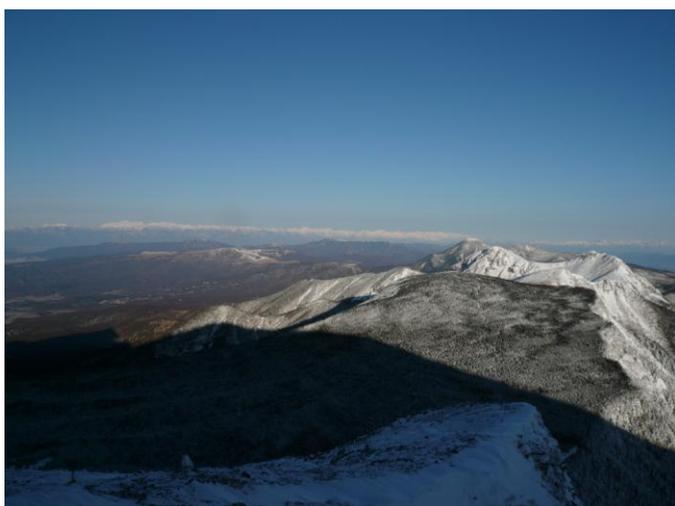
遠くに関東平野を囲む山々がすべて見渡せる



頸城の山々が近い。右端は妙高山。



硫黄岳山頂に到着



硫黄岳山頂は期待通りの大展望だった。日本海側の山々もすべて見えたのは幸運だった。この日は風も弱く、気温も高く、じっとしていてもあまり寒くない。



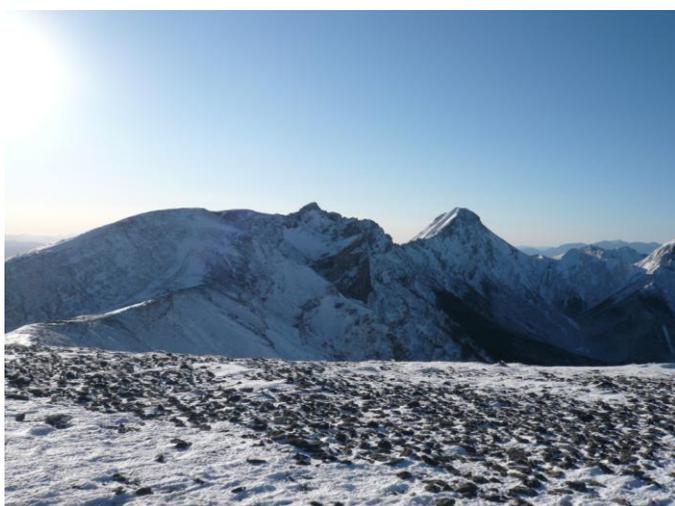
記念撮影。右が金子先生 (S48 卒)、左が只左 (M2)。



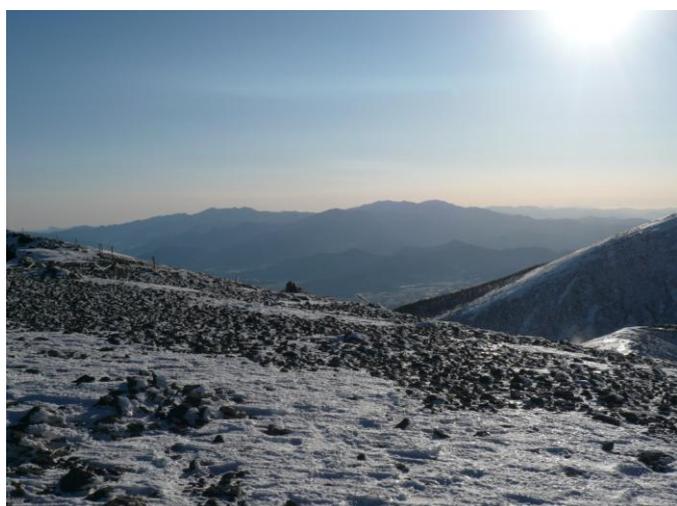
北八ヶ岳（左端は蓼科山）と頸城連峰遠望



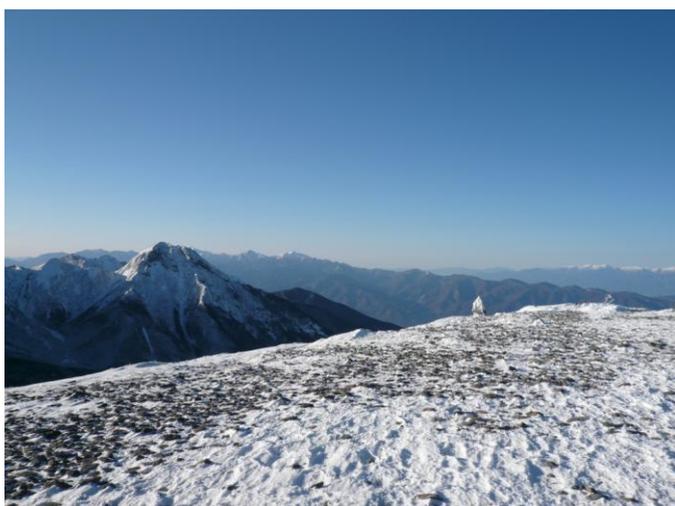
西の眺め



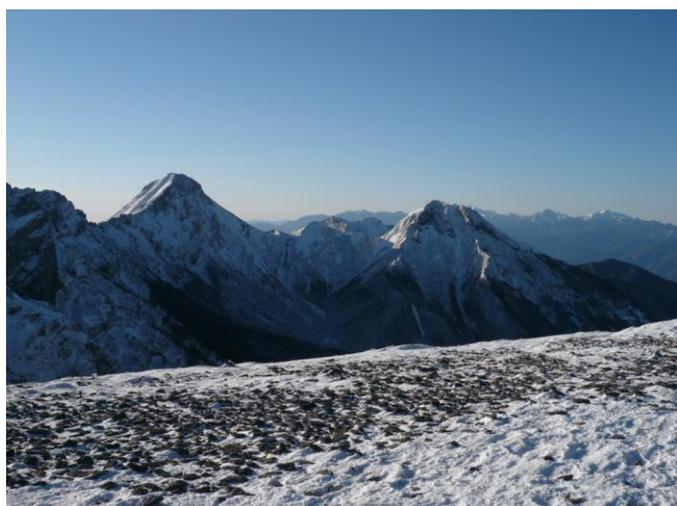
赤岳と横岳



奥秩父



阿弥陀岳と南アルプス。右の遠くの山は中央アルプス。



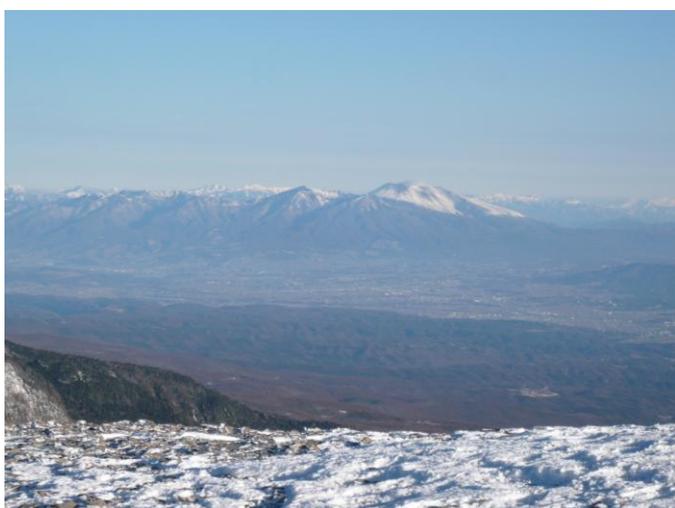
赤岳（左）と阿弥陀岳（右）。右の少し遠い山は、右から仙丈ガ岳、甲斐駒ヶ岳。



北の眺め

眺めを楽しんだら、峰の松目に続く稜線に向かって出発。赤岳鉱泉への分岐を過ぎると急に雪が深くなり、膝下まで潜るようになったので、赤岩の頭でアイゼンをワカンに履きかえ、その場所の雰囲気よかったですので座り込んで休憩をとった。

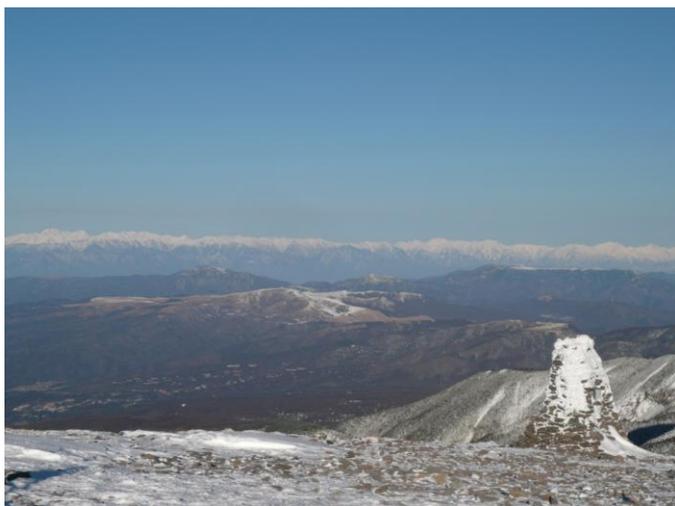
緩やかな尾根をラッセルしながら下って行く。しばらく行くと樹林帯となった。見晴らしの良い場所からの大展望もいいが、ときどき樹林の間から遠く山が見えるのもなかなかいい。予想通り、とても気持ちの良い尾根だった。私は、今回の山行でこの尾根歩きが一番楽しかった。



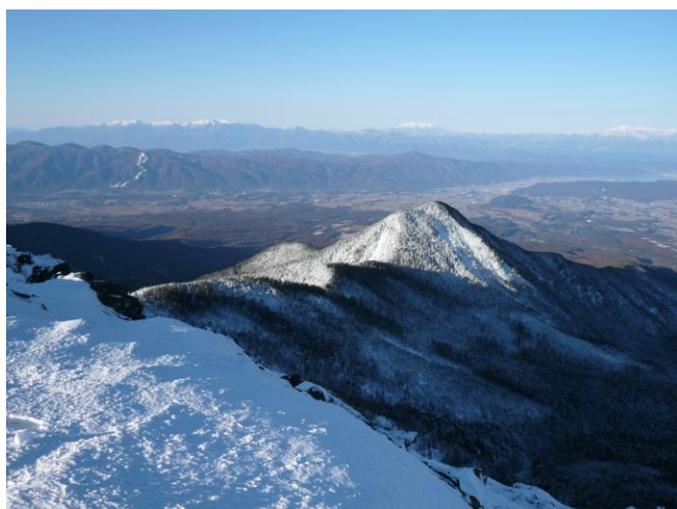
浅間山と佐久の盆地



広い硫黄岳山頂を後にする



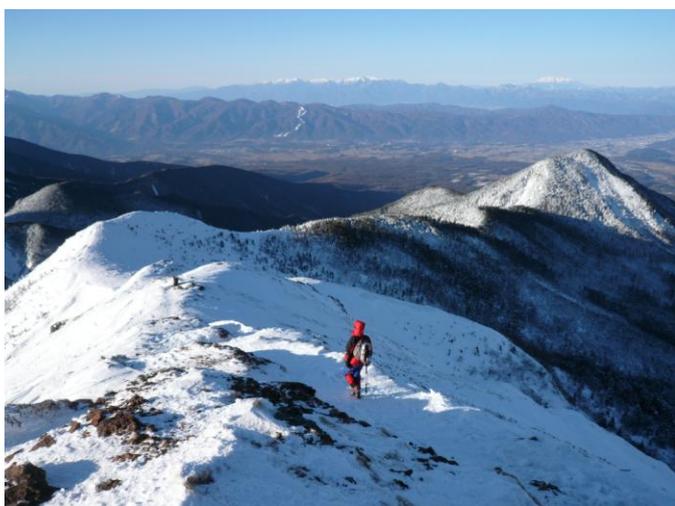
屏風のように連なる北アルプス



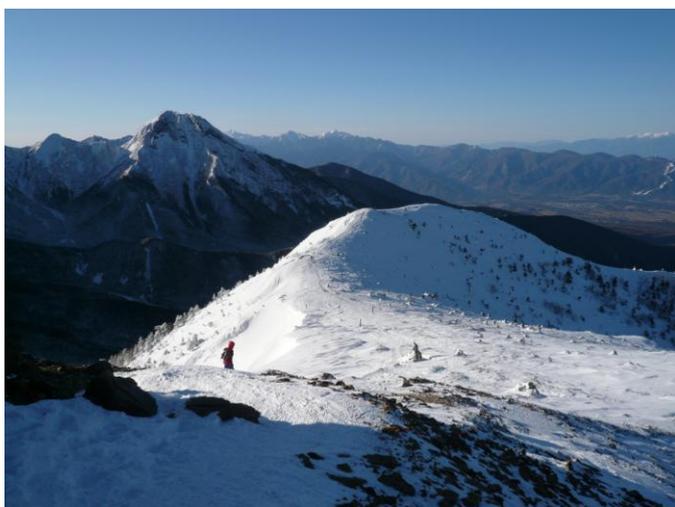
中央アルプスや御嶽山を正面に望みながら硫黄岳を下る



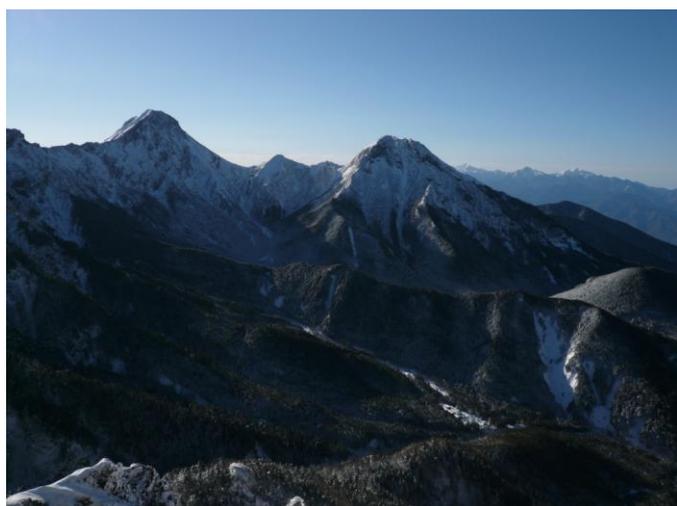
オーレン小屋に直接下る道との分岐



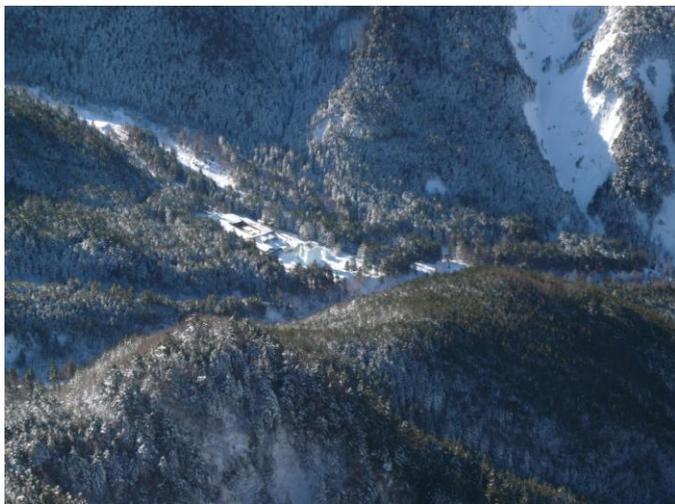
硫黄岳を振り返る。赤岳鉱泉から団体がぞろぞろと登って来た。



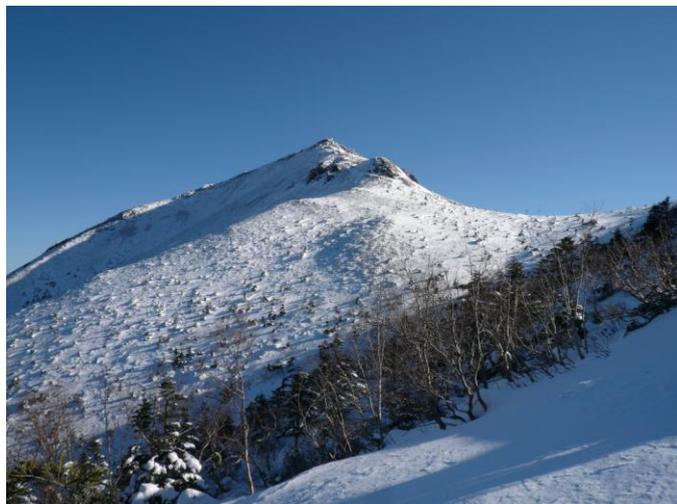
中央のこんもりしたところが赤岩の頭



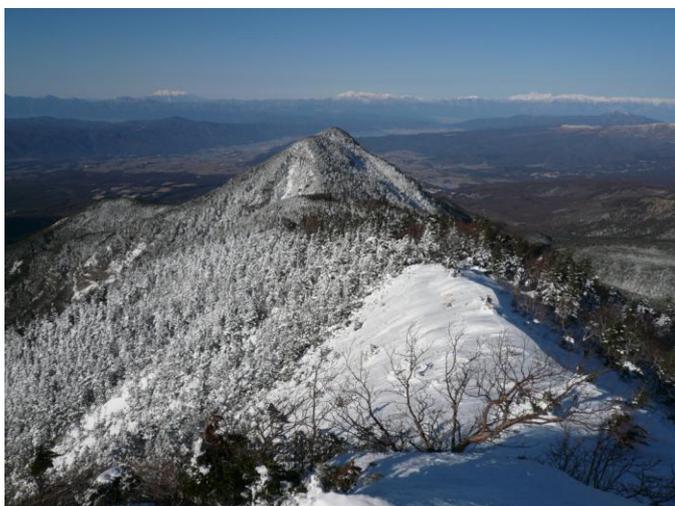
赤岳と阿弥陀岳



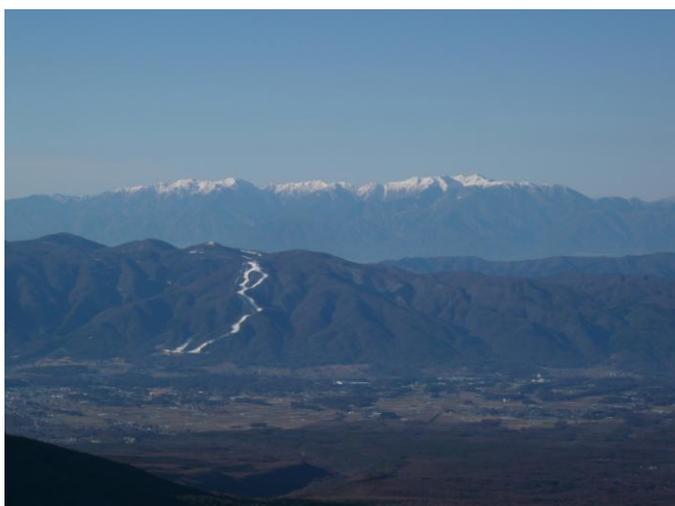
赤岳鉱泉



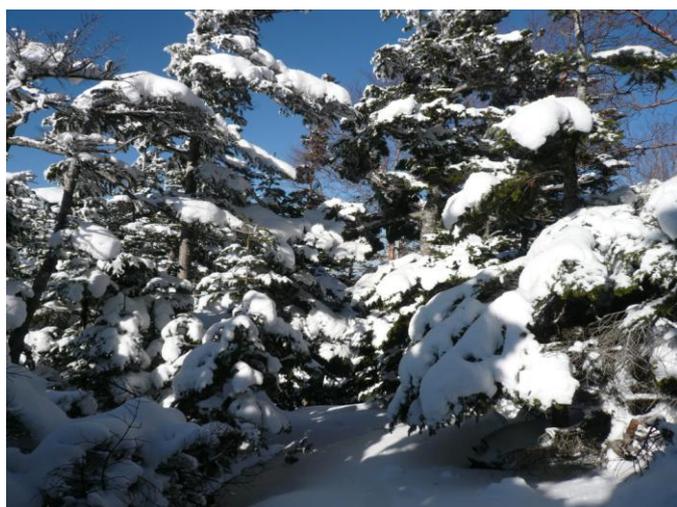
硫黄岳を振り返る



膝下ほどの雪をラッセルしながら峰の松目へ続くなだらかな稜線を下る



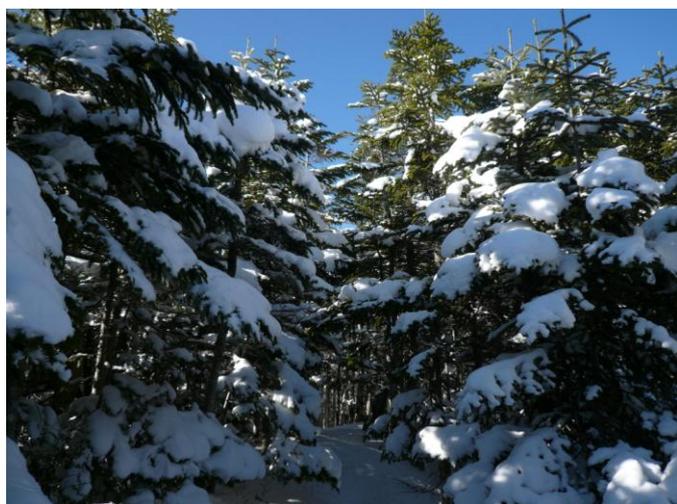
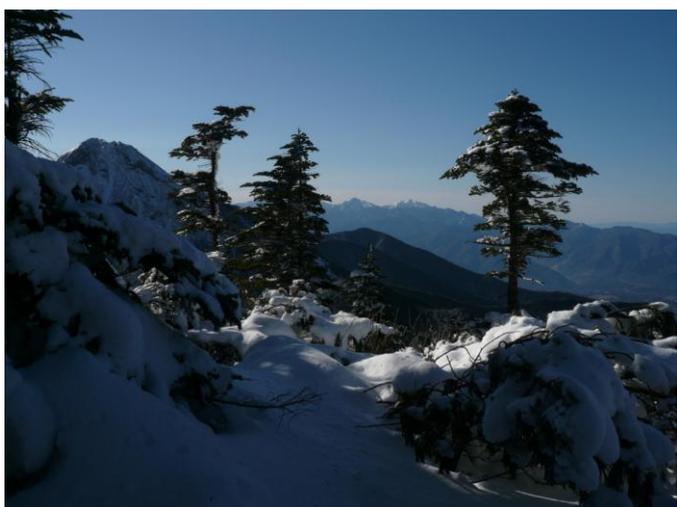
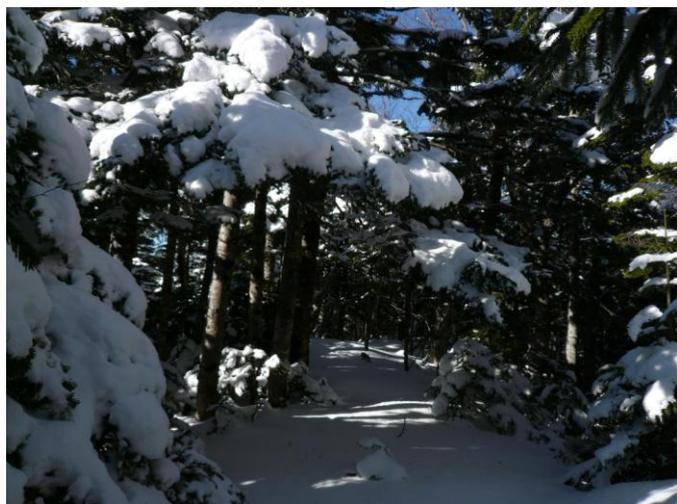
中央アルプス



道は樹林帯に入った



熊の爪痕

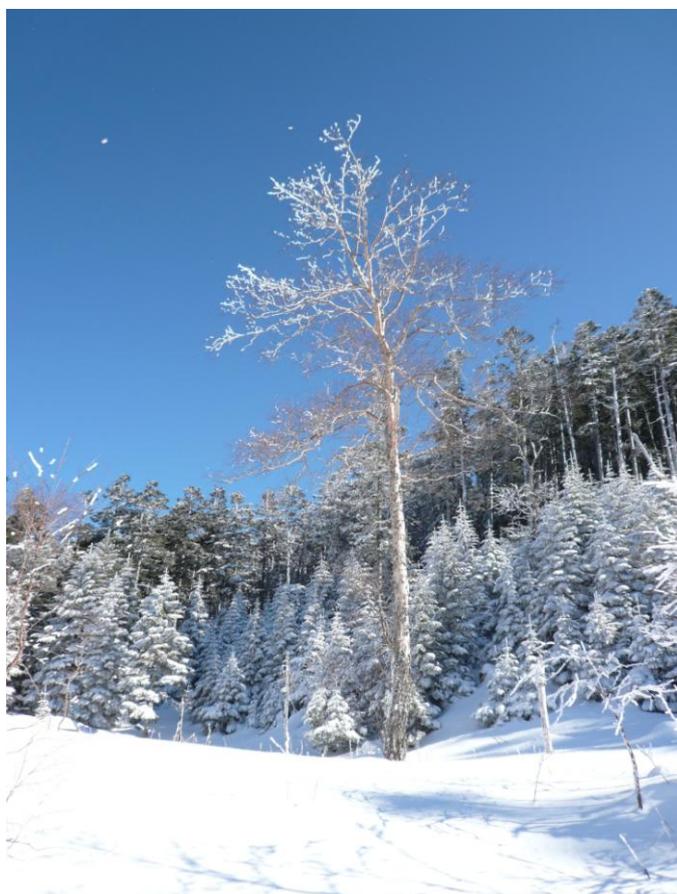




1時間半ほど樹林の中を歩き、峰の松目の直下のコルに到着。人の踏み跡が全くない尾根歩きを存分に楽しんだ。ここから昨日歩いた道を下り、オーレン小屋に戻った。



分岐のコル

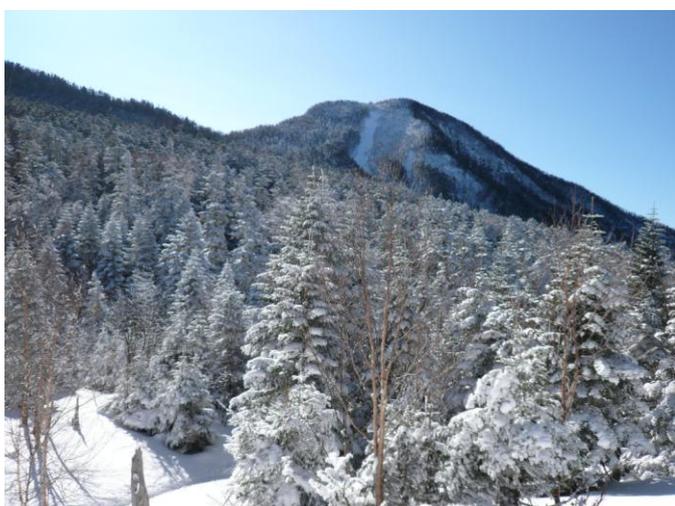




オーレン小屋のテント場



小屋の脇にある水場。冬でも水が湧き出している



日程にまだ余裕があったが、私が風邪をひいてしまい体調が悪くなりそうだったので下山することにした。荷物をまとめ、3日間お世話になった冬期小屋を後にした。

2日前に登って来た道を下るが、雪が溶けて少なくなっていた。夏沢鉱泉を過ぎ、桜平を通過。さらに林道を歩き続け、途中で電話してタクシーに迎えに来てもらっていた唐沢鉱泉入口に無事到着。茅野駅に戻り、金子先生は特急で、私は鈍行で家路に就いた。



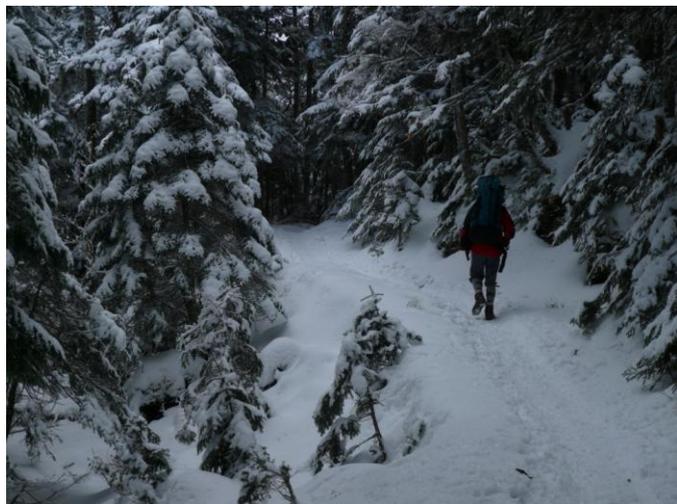
オーレン小屋の冬期小屋に戻った



3日間お世話になったオーレン小屋の冬期小屋



冬期小屋の入口



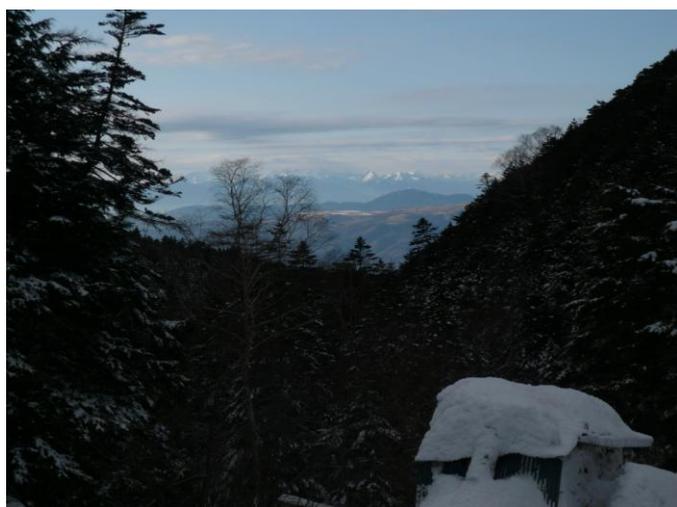
少し雲が出たが、すぐに消えてしまった



夏沢鉱泉を通過



オーレン小屋を後にした



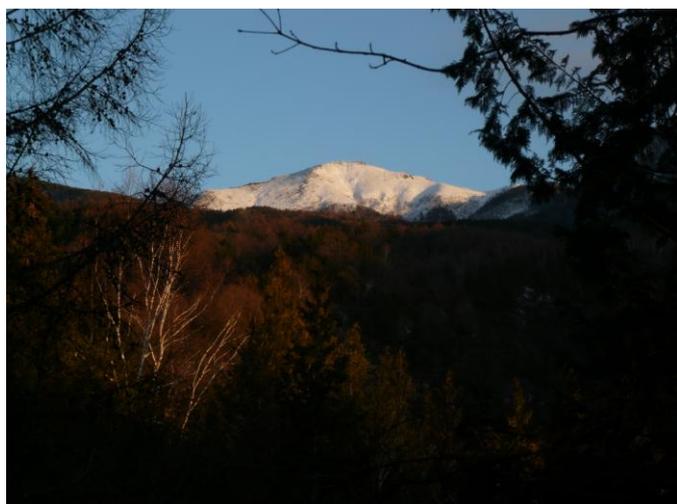


桜平



御嶽山

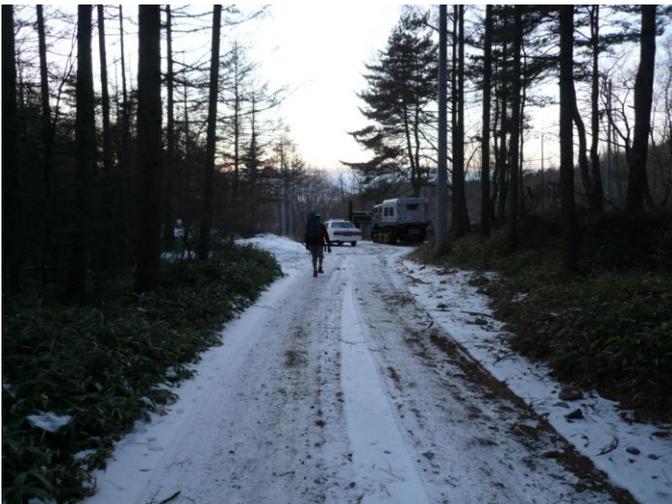




硫黄岳を振り返る



中央アルプスの向こうに日が沈んでしまった



唐沢鉱泉入口でタクシーが待っていてくれた。茅野駅に戻って解散。天候にも恵まれ、大変楽しい3日間であった。